

赤穂義士と山鹿

第1回

赤穂事件 (1)

毎年12月が近づくと、テレビで「忠臣蔵」の物語が放送されますが、忠臣蔵のモデルとなった「赤穂事件」と、この山鹿の地に関係があることを皆さんはご存知でしょうか。今月から「赤穂義士と山鹿」と題して、大石内蔵助ら赤穂義士たちと山鹿の関わりについて紹介していきます。

今回は赤穂義士と山鹿との関わりは出てきませんが、討ち入り後に肥後藩主・細川家が大石らを預かったことからその関係が始まります。

赤穂事件とは

さて、「忠臣蔵」の物語の題材となった赤穂事件をおさらいしてみましょう。事件が起こったのは江戸時代中期の元禄14(1702)年3月14日、江戸城の



浅野内匠頭墓(泉岳寺)(東京都港区)

「松の廊下」で朝廷からの使者(勅使)饗応役だった赤穂藩主浅野内匠頭がその指導役だった高家(儀式などを司る役職)の吉良上野介に斬り掛かったことに始まります。浅野が吉良に斬り掛かった理由には諸説あり、



赤穂城跡(兵庫県赤穂市)

現在でも良く分かっていません。当時、將軍の住まいである江戸城内で刀を抜くことは厳しく禁じられており、それを破った浅野は將軍・徳川綱吉の命令で即日切腹、赤穂藩は取り潰しとなりました。

このことはすぐに江戸から赤穂(現在の兵庫県赤穂市)に知らせが届き、家老の大石内蔵助らを中心に対応が検討されました。

赤穂藩士の中には幕府と戦おうという意見もありましたが、大石らが主張した「内匠頭の弟を新たな藩主として浅野家の再興を幕府に願ひ出る」という方針が決定され、幕府の決定通り赤穂城は明け渡されました。

その後、浪人となった大石は赤穂を離れて、京都の山科(現在の京都市山科区)へと移り住み、浅野家再興のために努力しました。ところが刃傷事件から4ヵ月後の元禄14年7月、幕府は浅野家の再興を認めない決定を下しました。

そこで、赤穂浪士たちは主君の無念を晴らすため、吉良邸への討ち入りへと動いていくこととなりました。

問い合わせ先: 社会教育課文化係 ☎43-1651

私だけは大丈夫!?

消費生活相談



粗品をきつかけに通っていたら、2ヵ月間で500万円の契約

【事例】

「商品の宣伝を聞いて無料で商品がもらえる」と知人に誘われ会場に出かけた。販売員の話が楽しく通っていたら、2ヵ月の間に、布団や磁気治療器などの購入を次々に勧められ契約してしまった。自分だけ小部屋に呼ばれて勧誘されるなどして断り切れずに買ったこともある。購入時は頭金の支払いだけなので、高額だという意識はなかったが、「場所を移転する。残額を支払って」と言われ初めて、総額が500万円以上だと分かった。生命保険を解約し、貯蓄と併せて支払った。商品を返品するので返金してほしい。

【アドバイス】

●粗品や楽しい雰囲気ひかれ、数ヵ月会場に通い続け、その間に次々と高額な商品を契約させられてしまう、SF商法(催眠商法)の相談が寄せられています。

●個別に声をかけられ勧誘を受けると断るのが難しくなります。会場に近づかないことが一番です。家族や周りの人も気を配りましょう。※おかしいなと思ったら、消費生活センターなどにご相談ください。

問: 山鹿市消費生活センター(商工観光課内)

☎43-1579

熊本県消費生活センター

☎096-383-0999